

6年生の保護者の皆様

摂津市立鳥飼東小学校  
学力向上担当

## 「令和4年度 全国学力・学習状況調査」結果と考察

## 1. 学力調査の結果と考察

	令和4年度 全国 平均正答率	令和4年度 大阪府 平均正答率	令和4年度 摂津市 平均正答率	令和4年度 学校 平均正答率	令和4年度 学校 対全国比
国語	65.6%	64.0%	65.0%		
算数	63.2%	62.6%	64.0%		
理科	63.3%	60.4%	61.0%		

※保護者配付用のみに全ての数値を入れています。

## 【国語】

今年度は、全体的によくできており、これまで国語に力を入れて校内研究を進めてきたことも成果に繋がったのではないかと考えられます。課題としていた漢字の記述についても正答率が全国平均を上回る結果となりました。しかし、文章全体の構成を考え・整えるという問題に関しては、全国平均と比較して、大幅にできていませんでした。

今回の特徴として、どの問題も最後まで粘り強く解こうとしている点が挙げられます。特に記述式の問題に対して、「何かしら書こう」とする姿勢が正答率の向上に繋がったのではないかと考えられます。今後の対策として、「最後まで諦めずに粘り強く解く」「解答用紙の空欄や空白をできるだけ無くすよう何かしら書く」という部分に力点を置き、指導に当たる必要があると考えられます。そして、子どもたちが苦手としている文章全体の構成を考えたり、整えたりする問題にも数多く触れさせ、文章の構成力を養成したいと考えています。

## 【算数】

今回、「図形」の問題はできていましたが、他の領域に関しては全国平均を大きく下回る結果となりました。課題として挙げられるのは、「求め方」や「量と数字との関係性」などを説明する問題、説明や立式をするための過程などを選択する問題を苦手としている点です。また、国語と違って8割の問題で無回答率の高さが全国平均よりも高いという残念な結果でした。

選択式・短答式・記述式のどのパターンにおいても共通しているのが、立式はできてもその理由や過程を説明できないという点です。また、半数ほどの問題で1～2割程度の無回答が見られることから、問題を読み取るスピード（読解力）に課題があると考えられます。今後の対策として、算数用語を使って立式した際の理由を説明させたり、ノートやワークシートに考え方を書かせたりする力を養成したいと考えています。

## 【理科】

理科の学力調査は3年に1度の割合で実施されますが、今回、理科で取り扱う語句や現象名など、基礎的な知識が定着していないと考えられます。無回答数は少なく、多くの児童が解答しようとしているものの、問題に書かれていることから重要な語句やヒントを探し出し、解答に繋げようとする力が弱いという傾向が見られました。今後の対策として、朝の学習などで理科の学習にも取り組み、前の学年で習った内容を系統立てて振り返るなど、繰り返し問題を解かせたいと考えています。

## 【学力向上に向けた今後の取組み】

- ・毎学期、校内独自で計算力診断テストを行い、「トリトン算数」の時間（今年度は木曜日の6時間目）を設け、子どもたちが苦手としている問題に数多く触れさせる機会を意図的に設けます。
- ・学年配当漢字の履修をなるべく早めに終わり、習熟度を上げる為、繰り返し学習を行います。併せて、作文を書かせる際やふり返りをさせる際に、習った漢字をできるだけ使用するよう、普段から意識させます。
- ・宿題の見直しを行います。特に文章問題や、記述を求められる問題については、国語も算数も朝の学習で取り組み、その後、履修した問題や似た問題などを宿題にしていこうと考えています。
- ・テストの結果は、個人懇談等で保護者にも伝え、長期休暇時の学習について相談します。

## 2. 学習状況調査の結果と考察

質問紙調査の結果から、学校では教員や友達と繋がり「自己肯定感」「自己有用感」「人の役に立ちたい」といった気持ちが育ってきている様子が見取れます。学校の取組みや授業に対して、概ね意欲的に取り組んでいるのは、自分のことが周りの人たちに「認められている」「受け入れられている」という安心感からきているのではないかと考えられます。そういった面で、本校の「集団づくりの取組み」は一定評価できるのではないかと考えられます。

一方で、自分の気持ちや考えを上手く相手に伝えられないことから、話し合いを苦手としており「クラスの抱える問題などが解決しづらい」といった面が課題として挙げられます。「学級会」等を活用して、自分たちの手で解決策を考え、行動に移させるよう、それらの手法を少しずつ取り入れていく必要があると思われる。

また、家庭では保護者の方とスマートフォンやゲームなどの使い方を事前に確認していると思われるが、実際にはそれらのルールを正しく守れず、その結果、残念ながらゲームや動画の長時間視聴などに繋がってしまっている児童も見受けられます。それらの悪循環として、家庭学習にもマイナスの影響が及んでおり、計画的に家庭学習が行えない一因となってしまっているようです。家庭で学習することの大切さを今一度見直し、中学校へ進学する前に、自主的に学習する力を是非、身に付けて欲しいと考えています。

結びに、今後、子どもたちの学習意欲を高める手段として、キャリア教育（進路指導）などにも力を入れたいと考えています。ゲストティーチャーとして様々な方を本校へ招いて、実際の経験談や体験談などを聞かせていただくことで、子どもたちに「将来の夢や目標」をもたせるきっかけづくりに繋がりたいと考えています。